

平成19年度第3回宮崎県社会教育委員会議事録要旨

- 1 開催期日：平成19年11月20日（火）13時30分から15時30分まで
- 2 会 場：県庁会議室
- 3 出席者：委員14名（3名欠席）
- 4 説明及び協議
 - 第1回、第2回の協議内容の総括
 - 今後の協議の進め方

〈確認事項〉

- ① 「家庭や地域の教育力の向上を図るための具体的な方策」について、「家庭の教育力向上部会」「地域の教育力向上部会」の2分科会を設置して協議していく。
- ② 協議テーマは、現段階では仮題としておき、今後の協議の深まりを受けて、設定していく。
- ③ 委員の希望を踏まえ、上記2分科会が組織された。また、委員の互選により、米良委員が家庭の教育力向上分科会長に、竹林委員が地域の教育力向上分科会長に就くことになった。

- 5 分科会 〈以下、○は委員の発言〉

【家庭の教育力向上分科会】

- 家庭を取り巻く様々な問題を考えたとき、地域や行政が積極的に支援していくことが大切である。
- 家庭の教育力が全体的に低下しているわけではなく、格差が生じているのではないかと。様々な問題を抱えている家庭が多く、精神的なゆとりを持って子育てに向き合うことができているように感じる。家庭の役割をきちんと定義付け、それをどう呼びかけていけばいいか具体的に検討してはどうか。
- 子どもたちの食生活をみたとき、孤食、栄養の偏りが気になる。
- 「若い親」を、「ベテランの親」が支援できる縦のつながりが大切である。定期健診時など、機会を見つけて話をしていけば効果があるのではないかと。
- 時代とともに、価値観やしつけの方法が変わってきている。現代の子どもには、それに合ったしつけの方法がある。「昔はよかった」だけでなく、新しい価値観に立った提言がしたい。「親と子の対話」等、地域・学校を通して呼びかけられることを一つ決めて提案してはどうか。

- 食の問題に焦点を当ててはどうか。親と子の会話など、食事を通してできることが多く、家庭の教育力の向上において、食育は重要な位置を占めている。

【地域の教育力向上分科会】

- 生涯学習・社会教育を通じた地域貢献、高齢者の社会参加等が大きな課題となっているが、その際、関係団体をつなぐコーディネーターの存在が大きくなっている。今後、このコーディネーターとなる人材を育成していくことが必要である。
- 地域において、社会教育関係団体等がそれぞれ単独で動いているように感じている。これらの活動が一つになることで、効果が上がるのではないか。
- 官民協働によるまちづくりが各地で進められている。その際、重要になるのが「民」の力であり、自治公民館、婦人会、青年団等の地域団体が地域の教育力を向上させる原動力になるのではないか。
- 福岡県須恵町の取組として、小学校の中に地域活動の拠点となる事務局が入っているのは非常におもしろい取組である。
- 地域住民が交流し合い、連携を深めていけるような場づくりを考えていけばいいのではないか。
- 小学校や自治公民館等の中に、地域住民の交流の場を設けると効果的ではないか。そこで、どんな人がどんな活動をしていけばいいのか、地域の各種団体の活性化策も関連させて考えていけばいいのではないか。
- 学校の余裕教室等を活用して、地域教育の拠点づくりを進めていきたい。

6 全体会

各分科会長が分科会報告を行い、相互に意見交換を行った。